

# 県内景気動向調査

株式会社清水地域経済研究センター

## 要旨

〈今期（2023年4月時）〉

### 業況：全般に改善 販売単価上昇等により、売上は減少するも採算はやや改善

- ・今期の業況全般 DI（「良い」から「悪い」を差引きし指数化）は、前回（2023年1月時調査）に比べ+1.9<sup>ポイント</sup>の▲2.1と改善し、先行き（2023年7月時予想）も今期比+11.3<sup>ポイント</sup>の9.2と改善の見通し。
- ・売上 DI は前回比▲2.5<sup>ポイント</sup>の2.1と減少したが、先行きは今期比+3.3<sup>ポイント</sup>の5.4と増加の見通し。
- ・採算 DI は前回比+15.2<sup>ポイント</sup>の▲25.2と改善し、先行きも今期比+15.7<sup>ポイント</sup>の▲9.5と改善の見通し。
- ・販売単価 DI は前回比▲12.6<sup>ポイント</sup>の18.5と低下したが、先行きは今期比+2.7<sup>ポイント</sup>の21.2と上昇の見通し。
- ・仕入単価 DI は前回比▲5.6<sup>ポイント</sup>の55.1と低下し、先行きも今期比▲4.1<sup>ポイント</sup>の51.0と低下の見通し。
- ・引き合い DI は前回比+0.7<sup>ポイント</sup>の2.0と増加し、先行きも今期比+2.8<sup>ポイント</sup>の4.8と増加の見通し。
- ・在庫 DI は前回比▲0.6<sup>ポイント</sup>の4.2と減少し、先行きも今期比▲4.9<sup>ポイント</sup>の▲0.7と減少の見通し。
- ・今期については、売上高は減少したものの、原材料高、燃料高等の仕入価格高騰が若干緩和された。採算はマイナスであるものの前回より改善し、業況全般も改善した。今後については、コロナ禍の影響が落ち着きつつあることや価格交渉等により、採算は改善を見込み、業況全般も改善の見通しとなった。

### 資金繰り・設備・雇用：資金繰りは悪化、設備不足、人手は改善するも依然不足

- ・資金繰り DI は前回比▲3.6<sup>ポイント</sup>の▲9.6と悪化したが、先行きは今期比+2.1<sup>ポイント</sup>の▲7.5と改善の見通し。
- ・設備 DI は前回比▲2.2<sup>ポイント</sup>の▲8.9と不足となり、先行きも今期比▲1.4<sup>ポイント</sup>の▲10.3と悪化の見通し。
- ・雇用において、人員数 DI は前回比+11.3<sup>ポイント</sup>の▲34.7と改善するも人手不足の状態が続き、先行きは今期比▲0.2<sup>ポイント</sup>の▲34.9と悪化し、引き続き人手不足の見通し。労働時間 DI は、前回比±0.0<sup>ポイント</sup>の2.0と横這い、先行きは今期比+0.7<sup>ポイント</sup>の2.7と増加の見通し。賃金 DI は前回比+7.2<sup>ポイント</sup>の27.2と増加し、先行きも今期比+9.5<sup>ポイント</sup>の36.7と増加する見通し。

### 経営上の課題と対応方針

- ・経営上の課題としては、「採算悪化」が52.0%の第1位となり、主な対応方針は「受注単価の底上げ」が33.1%となった。第2位の課題は「人手不足・技術者不足」が46.6%であり、主な対応方針は「新規採用・獲得」が43.2%となった。次いで第3位は「売上減少・停滞」が37.8%であり、主な対応方針は「新規取引先開拓」が27.0%となった。

### 最近の国内外における社会経済情勢の影響

- ・最近の国内外における社会経済情勢の影響を受けているものとして最も多かったものが「電気料金、燃料価格」で77.2%であった。2番目に多かったのが「原材料価格」の71.0%であった。次いで多かった項目が「人手不足・人材不足」の44.8%、「価格転嫁不十分」42.8%であった。

### 設備投資の目的

- ・設備投資の目的について最も多かったのが「耐用年数・更新」の47.3%であった。2番目に多かったのが「社内設備の改善など従業員定着策」の32.4%、次いで多かった項目が「新規分野対応」の21.6%であった。

## 業況全般

業況全般 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善の見通し

今期の業況全般 DI における全体 DI は、

▲2.1（前回比+1.9<sup>ポイント</sup>）と改善した。

製造業 DI は▲22.6（同▲3.7<sup>ポイント</sup>）と悪化し、非

製造業 DI は 13.3（同+2.9<sup>ポイント</sup>）と改善した。

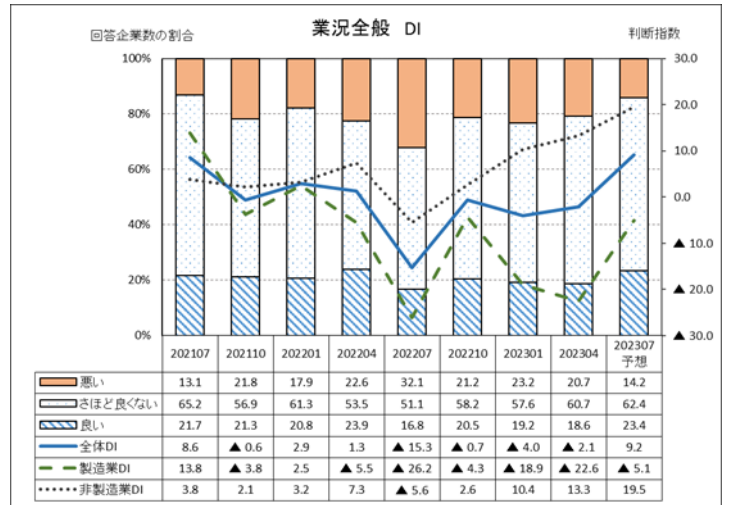
先行きでは、全体 DI は 9.2（今期比+11.3<sup>ポイント</sup>）

と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは▲5.1（同+17.5<sup>ポイント</sup>）、非製

造業 DI の先行きも 19.5（同+6.2<sup>ポイント</sup>）といずれ

も改善する見通しである。



## 業況全般（エリア別）

エリア別の業況全般 DI は、清水エリアと西部エリアは悪化したものの他は改善し、先行きは、全てのエリアで改善の見通し

今期のエリア別の業況全般 DI は、東部 DI が

8.1（同+25.9<sup>ポイント</sup>）、静岡 DI が 9.4（同+6.1<sup>ポイント</sup>）

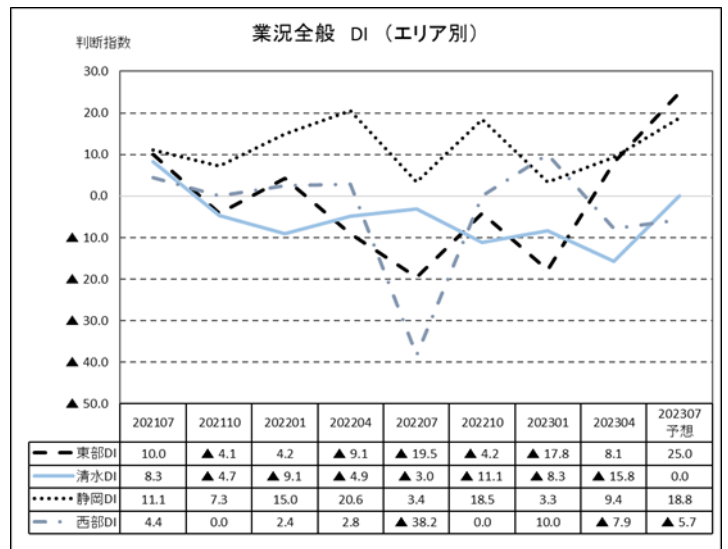
と改善したが、清水 DI が▲15.8（同▲7.5<sup>ポイント</sup>）

西部 DI が▲7.9（前回比▲17.9<sup>ポイント</sup>）と悪化し

た。

また、先行きについては、全てのエリアで改善

する見通しである。



## 売上

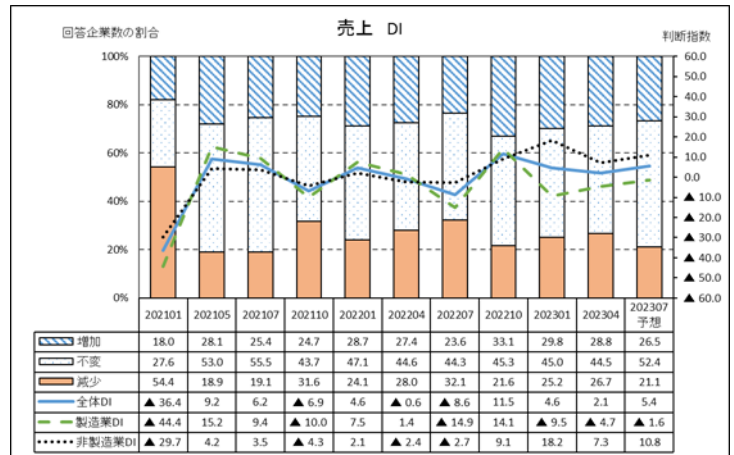
売上 DI は前回に比べ減少したものの、先行きは増加の見通し

今期の売上 DI における全体 DI は 2.1（前回比 ▲2.5<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は ▲4.7（同+4.8<sup>ポイント</sup>）と増加し、非製造業 DI は 7.3（同 ▲10.9<sup>ポイント</sup>）と減少した。

先行きでは、全体 DI は 5.4（今期比+3.3<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行き ▲1.6（同+3.1<sup>ポイント</sup>）と増加し、非製造業 DI の先行きは 10.8（同+3.5<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。



## 採算

採算 DI は前回に比べ改善し、先行きも改善の見通し

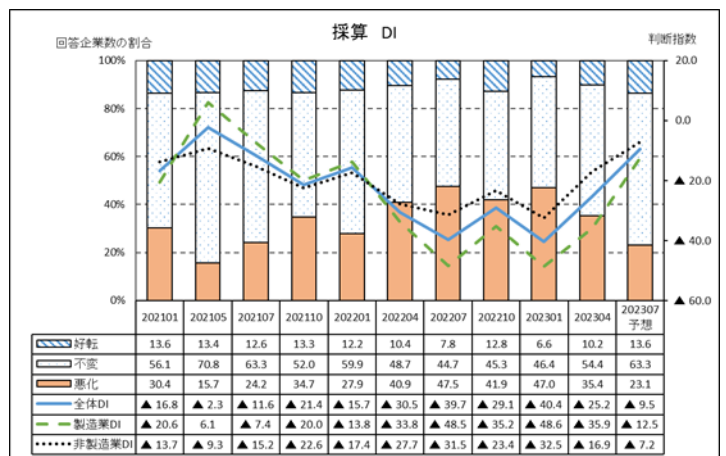
今期の採算 DI における全体 DI は ▲25.2

（前回比+15.2<sup>ポイント</sup>）と改善した。

製造業 DI は ▲35.9（同+12.7<sup>ポイント</sup>）、非製造業 DI は ▲16.9（同+15.6<sup>ポイント</sup>）と、ともに改善した。

先行きでは、全体 DI は ▲9.5（今期+15.7<sup>ポイント</sup>）と改善する見通しである。

製造業 DI の先行きは ▲12.5（同+23.4<sup>ポイント</sup>）、非製造業 DI の先行きは ▲7.2（同+9.7<sup>ポイント</sup>）と、ともに改善する見通しである。



## 販売単価

販売単価 DI は前回に比べ低下するも、先行きは上昇の見通し

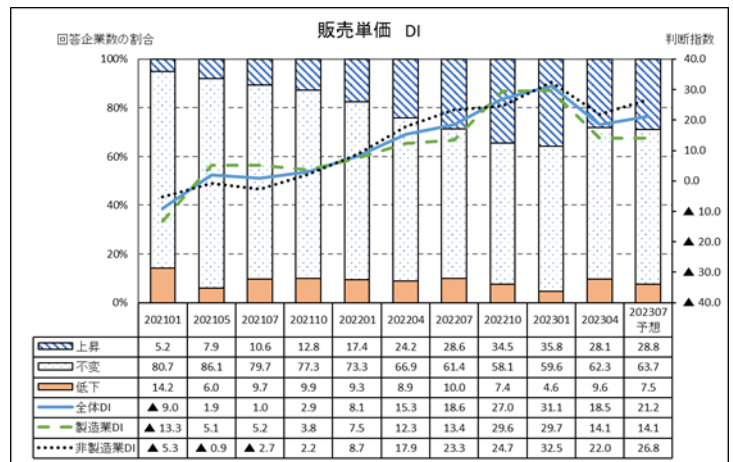
今期の販売単価 DI における全体 DI は 18.5

(前回比▲12.6<sup>ポイント</sup>) と低下した。

製造業 DI は 14.1 (同▲15.6<sup>ポイント</sup>)、非製造業 DI は 22.0 (同▲10.5<sup>ポイント</sup>) と、ともに低下した。

先行きでは、全体 DI は 21.2 (今期比+2.7<sup>ポイント</sup>) と上昇する見通しである。

製造業 DI の先行きは 14.1 (同±0.0<sup>ポイント</sup>) と同水準、非製造業 DI の先行きは 26.8 (同+4.8<sup>ポイント</sup>) と、上昇する見通しである。



## 仕入単価

仕入単価 DI は前回に比べ低下し、先行きも低下の見通し

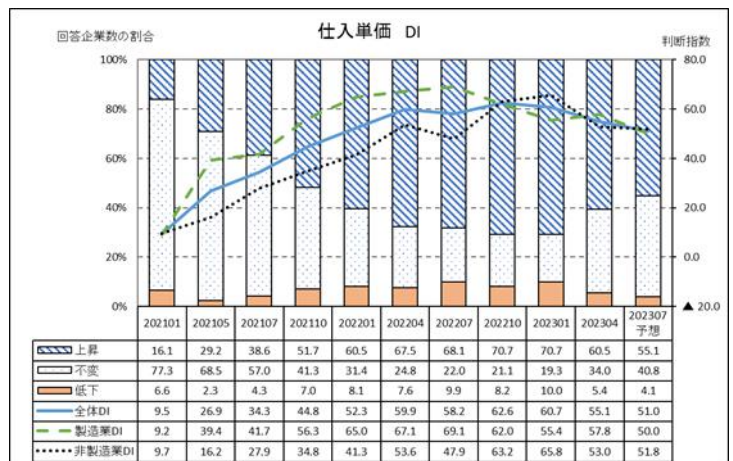
今期の仕入単価 DI における全体 DI は 55.1

(前回比▲5.6<sup>ポイント</sup>) と低下した。

製造業 DI は 57.8 (同+2.4<sup>ポイント</sup>) と上昇し、非製造業 DI は 53.0 (同▲12.8<sup>ポイント</sup>) と低下した。

先行きでは、全体 DI は 51.0 (今期比▲4.1<sup>ポイント</sup>) と低下する見通しだが、依然として高水準を見込む。

製造業 DI の先行きは 50.0 (同▲7.8<sup>ポイント</sup>) と低下、非製造業 DI の先行きは 51.8 (同▲1.2<sup>ポイント</sup>) と低下する見通しである。



## 引き合い

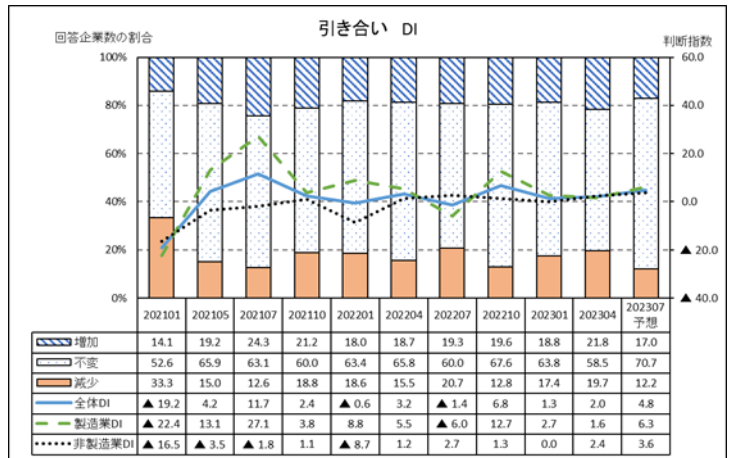
引き合い DI は前回に比べ増加し、先行も増加の見通し

今期の引き合い DI における全体 DI は 2.0（前  
 回比+0.7<sup>ポイント</sup>）と増加した。

製造業 DI は 1.6（同▲1.1<sup>ポイント</sup>）と減少し、非製  
 造業 DI は 2.4（同+2.4<sup>ポイント</sup>）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 4.8（今期比+2.8<sup>ポイント</sup>）  
 と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 6.3（同+4.7<sup>ポイント</sup>）と増加  
 し、非製造業 DI は 3.6（同+1.2<sup>ポイント</sup>）と、とも  
 に増加の見通しである。



## 在庫

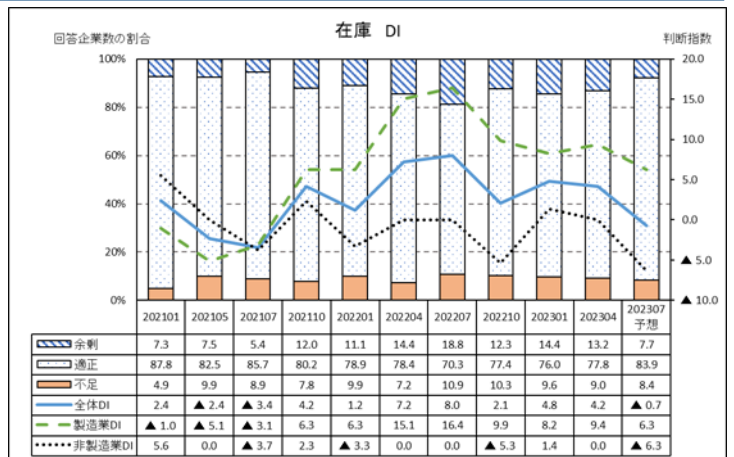
在庫 DI は前回に比べ減少し、先行きも減少の見通し

今期の在庫 DI における全体 DI は 4.2（前回比  
 ▲0.6<sup>ポイント</sup>）と減少した。

製造業 DI は 9.4（同+1.2<sup>ポイント</sup>）と増加し、非製  
 造業 DI は▲0.0（同▲1.4<sup>ポイント</sup>）と減少した。

先行きでは、全体 DI は▲0.7（今期比  
 ▲4.9<sup>ポイント</sup>）と減少する見通しである。

製造業 DI の先行きは 6.3（同▲3.1<sup>ポイント</sup>）、非製  
 造業 DI の先行きは▲6.3（同▲6.3<sup>ポイント</sup>）といず  
 れも減少する見通しである。



## 資金繰り

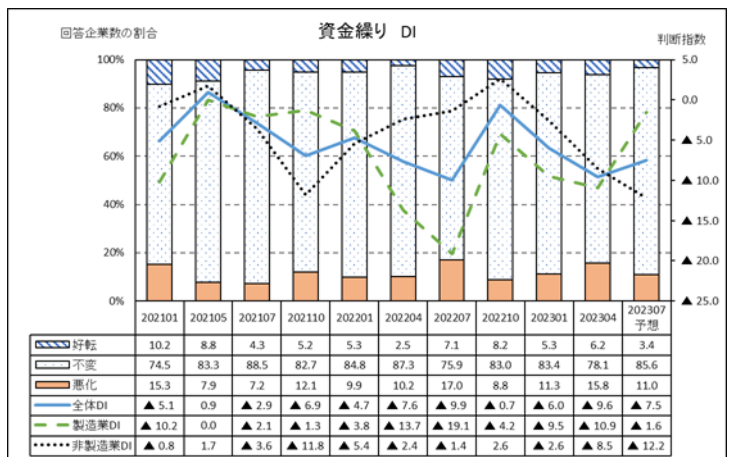
資金繰り DI は前回に比べ悪化し、先行きは改善の見通し

今期の資金繰り DI における全体 DI は▲9.6  
 （前回比▲3.6<sup>ポイント</sup>）と悪化した。

製造業 DI は▲10.9（前回比▲1.4<sup>ポイント</sup>）、非製  
 造業 DI は▲8.5（前回比▲5.9<sup>ポイント</sup>）と、ともに悪  
 化した。

先行きでは、全体 DI は▲7.5（今期比+2.1<sup>ポイント</sup>）  
 と改善する見通しである。

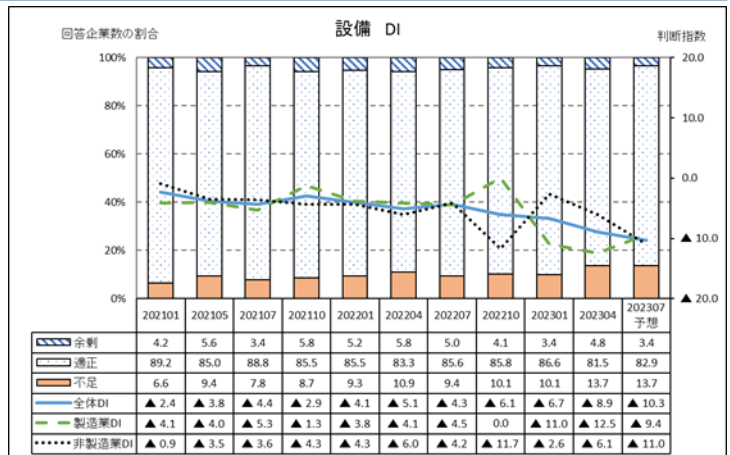
製造業 DI の先行きは▲1.6（同+9.3<sup>ポイント</sup>）と改善  
 し、非製造業 DI の先行きは▲12.2（同▲3.7  
 ポイント）と悪化する見通しである。



## 設備

### 設備 DI は前回と同様に設備不足が続き、先行きは悪化の見通し

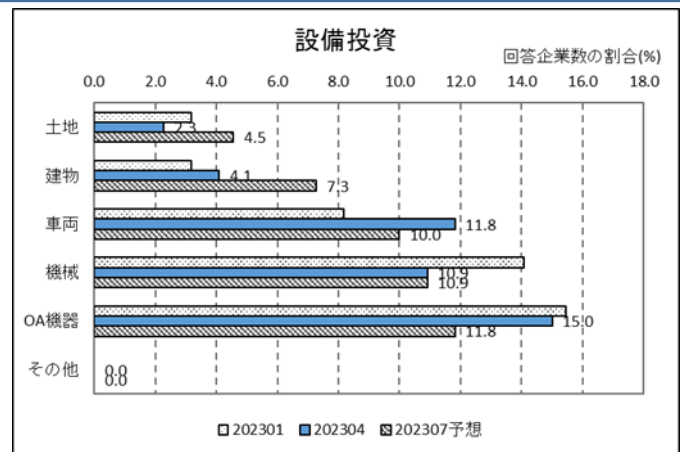
今期の設備 DI における全体 DI は▲8.9（前回比▲2.2<sup>ポイント</sup>）と設備不足の状態が続く。  
 製造業 DI は▲12.5（同▲1.5<sup>ポイント</sup>）と悪化し、非製造業 DI は▲6.1（同▲3.5<sup>ポイント</sup>）と悪化した。  
 先行きでは、全体 DI は▲10.3（今期比▲1.4<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。  
 製造業 DI の先行きは▲9.4（同+3.1<sup>ポイント</sup>）と改善し、非製造業 DI の先行きは▲11.0（同▲4.9<sup>ポイント</sup>）と悪化する見通しである。



## 設備投資（複数回答可）

### 設備投資については、今期および先行きも、OA 機器、機械、車両が主流

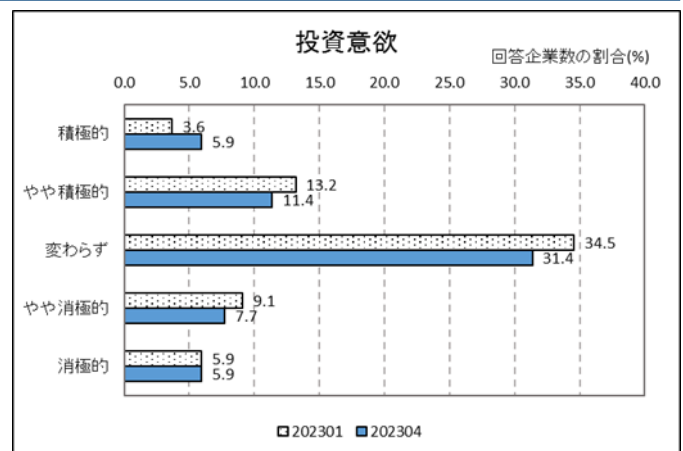
今期の設備投資の状況は、OA 機器 15.0%、車両 11.8%、機械 10.9%、建物 4.1%、土地 2.3%となった。  
 先行きでは、OA 機器 11.8%、機械 10.9%、車両 10.0%、建物 7.3%、土地 4.5%に設備投資する見通しとなった。



## 投資意欲

### 「積極的」が 5.9%となり、「変わらず」が 31.4%、「消極的」が 5.9%となった

今期の投資意欲の状況は、  
 「積極的」 5.9%（前回比+2.3<sup>ポイント</sup>）、  
 「やや積極的」 11.4%（同▲1.8<sup>ポイント</sup>）、  
 「変わらず」 31.4%（同▲3.1<sup>ポイント</sup>）、  
 「やや消極的」 7.7%（同▲1.4<sup>ポイント</sup>）、  
 「消極的」 5.9%（同±0.0<sup>ポイント</sup>）となった。



## 人員数

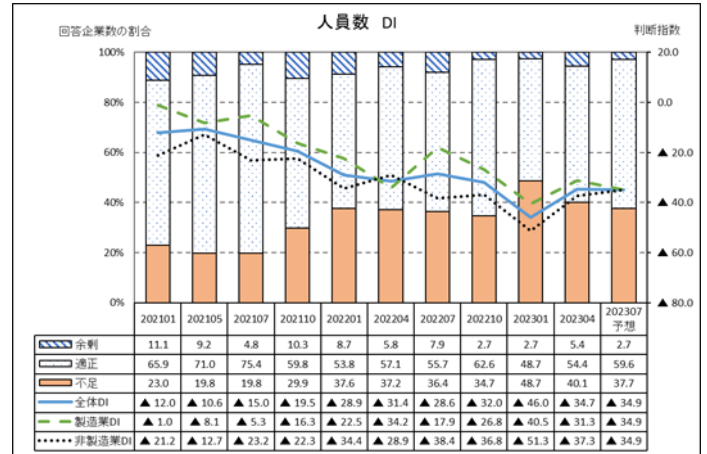
人員数 DI は前回に比べ改善するも、先行きは引き続き人手不足が続く見通し

今期の人員数 DI における全体 DI は▲34.7（前回比+11.3<sup>ポイント</sup>）と、改善は見られるものの人手不足の状態が続いている。

製造業 DI は▲31.3（同+9.2<sup>ポイント</sup>）、非製造業 DI は▲37.3（同+14.0<sup>ポイント</sup>）と、いずれも改善した。

先行きでは、全体 DI は▲34.9（今期比▲0.2<sup>ポイント</sup>）と、引き続き人手不足が続く見通しである。

製造業 DI の先行きは▲34.9（同▲3.6<sup>ポイント</sup>）と悪化、非製造業 DI の先行きは▲34.9（同+2.4<sup>ポイント</sup>）と改善の見通しである。



## 労働時間

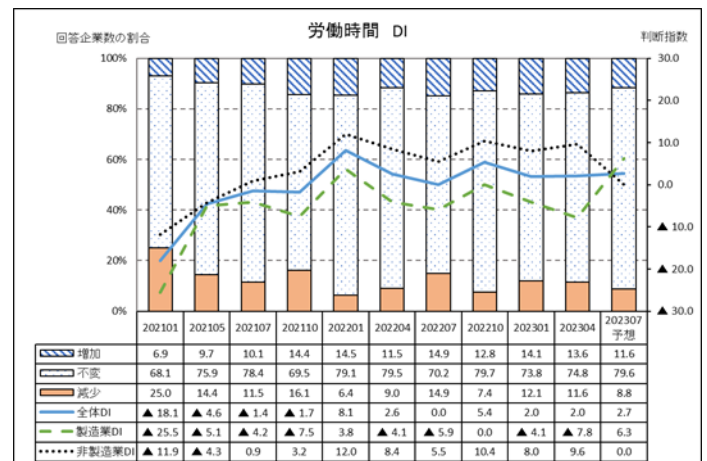
労働時間 DI は前回と同水準、先行きは増加の見通し

今期の労働時間 DI における全体 DI は 2.0（前回比±0.0<sup>ポイント</sup>）と同水準であった。

製造業 DI は▲7.8（同▲3.7<sup>ポイント</sup>）と減少、非製造業 DI は 9.6（同+1.6<sup>ポイント</sup>）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 2.7（今期比+0.7<sup>ポイント</sup>）と増加の見通しである。

製造業 DI の先行きは 6.3（同+14.1<sup>ポイント</sup>）と増加、非製造業 DI の先行きは 0.0（同▲9.6<sup>ポイント</sup>）と、減少する見通しである。



## 賃金

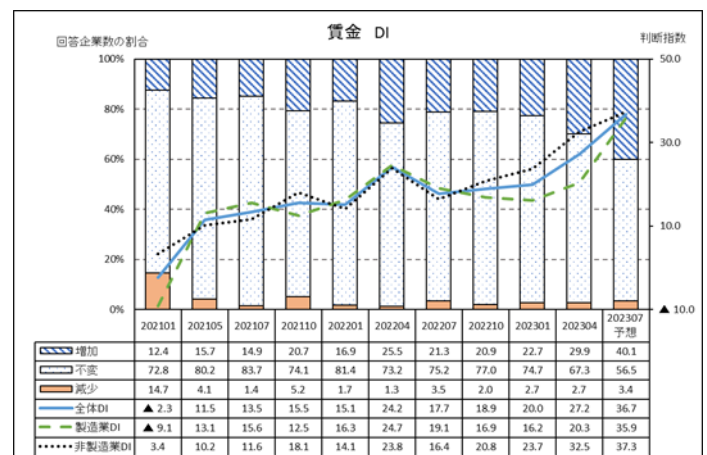
賃金 DI は前回に比べ増加し、先行きも増加の見通し

今期の賃金 DI における全体 DI は 27.2（前回比+7.2<sup>ポイント</sup>）と増加した。

製造業 DI は 20.3（+4.1<sup>ポイント</sup>）と増加し、非製造業 DI は 32.5（同+8.8<sup>ポイント</sup>）と増加した。

先行きでは、全体 DI は 36.7（今期比+9.5<sup>ポイント</sup>）と増加する見通しである。

製造業 DI の先行きは 35.9（同+15.6<sup>ポイント</sup>）、非製造業 DI の先行きは 37.3（同+4.8<sup>ポイント</sup>）と、ともに増加する見通しである。



## 経営上の課題（2つまで選択） 課題に対する対応方針（複数回答可）

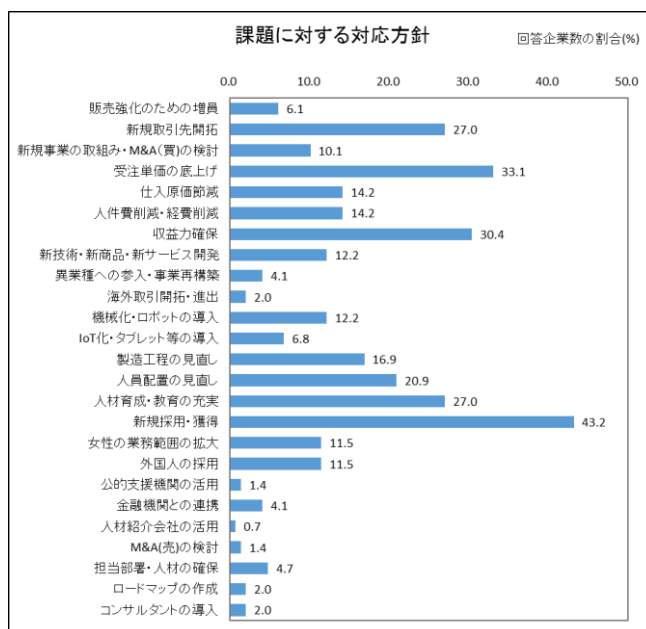
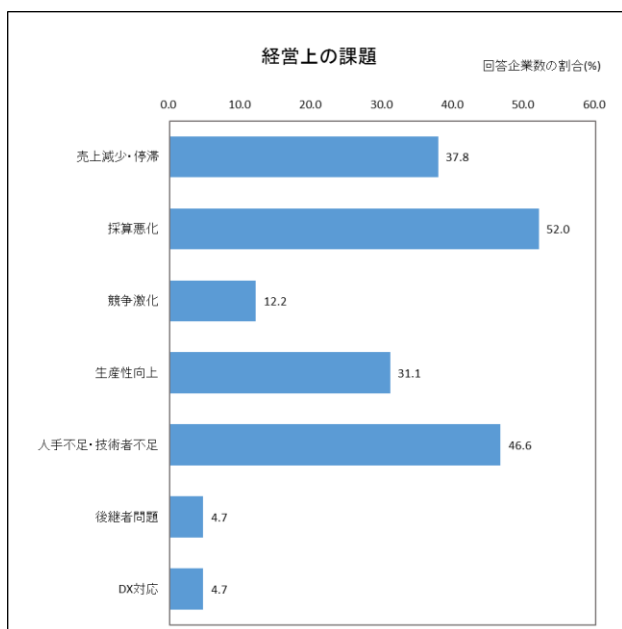
経営上の課題として最も多かったのが「採算悪化」52.0%であった。その課題に対する対応方針として「受注単価の底上げ」が33.1%、「収益力確保」が30.4%、「仕入原価節減」と「人件費削減・経費削減」が共に14.2%であった。2番目に多かったのが「人手不足・技術者不足」46.6%であり、対応方針として「新規採用・獲得」が43.2%、「人材育成・教育の充実」が27.0%、「外国人の採用」と「女性の業務範囲の拡大」が共に11.5%であった。次いで多かったのが「売上減少・停滞」37.8%であった。その課題に対する対応方針として「新規取引先開拓」が27.0%、「新規事業の取組み・M&A（買）の検討」が10.1%、「販売強化のための増員」が6.1%であった。

「生産性向上」は31.1%であり、対応方針として「人員配置の見直し」が20.9%、「製造工程の見直し」が16.9%、「機械化・ロボットの導入」が12.2%、「IoT化・タブレット等の導入」が6.8%となった。

「競争激化」は12.2%であり、対応方針として「新技術・新商品・新サービス開発」が12.2%、「異業種への参入・事業再構築」が4.1%、「海外取引開拓・進出」が2.0%であった。

「後継者問題」は4.7%であり、対応方針として「金融機関との連携」が4.1%、「公的支援機関の活用」と「M&A（売）の検討」が共に1.4%、「人材紹介会社の活用」が0.7%となった。

「DX対応」は4.7%であり、対応方針として「担当部署・人材の確保」が4.7%、「コンサルタントの導入」「ロードマップの作成」が共に2.0%であった。



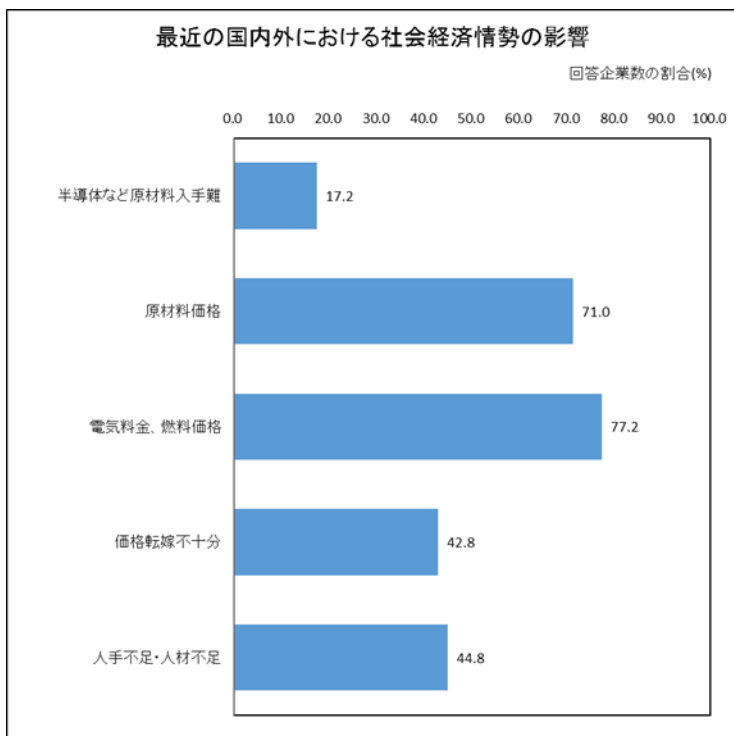


## 最近の国内外における社会経済情勢の影響

最も多かったのが「電気料金、燃料価格」の77.2%、次いで「原材料価格」の71.0%であった

最近の国内外における社会経済情勢の影響を受けているものとして最も多かったものが「電気料金、燃料価格」で77.2%であった。2番目に多かったのが「原材料価格」71.0%であった。次いで多かったのが「人手不足・人材不足」44.8%、「価格転嫁不十分」42.8%であった。以下、「半導体など原材料入手難」17.2%となった。

(有効回答企業数 145 社、複数回答可)

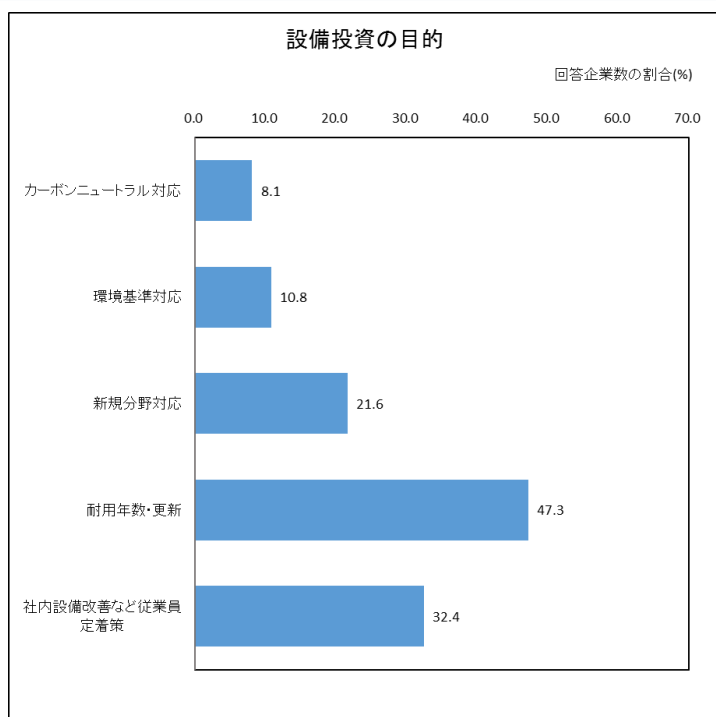


## 設備投資の目的

最も多かったのが「耐用年数・更新」の47.3%、次いで「社内設備改善など従業員定着策」の32.4%であった

設備投資の目的について最も多かったのが「耐用年数・更新」の47.3%であった。2番目に多かったのが「社内設備改善など従業員定着策」32.4%であった。次いで多かったのが「新規分野対応」21.6%であった。以下、「環境基準対応」10.8%、「カーボンニュートラル対応」が8.1%であった。

(有効回答企業数 125 社、複数回答可)



## 特徴的なコメント

	業況全般（現状）	業況全般（先行き）
飲食料品製造業	コロナの影響も下火になり、人流が増加傾向にあり、スポット売上が増加	現状が持続する予想
木材・木製品製造業	梱包材、住宅資材については悪化、トラック荷台用資材は特殊要因により良化している	木材価格の低下を予想しており、高い在庫が業績の足を引っ張る可能性がある
パルプ・紙・紙加工品製造業	材料費が上がった為、売上は上がったが、採算は変わらず、3月から注文が減っている	あまり明るい情報が入ってこない
自動車・同部品製造業	原材料は高止まり、電気料金は上昇が見込まれ、仕入金額及び固定費の増額が悩みである 売上は悪化していないが、伸び悩んでいる	メーカーからの内示では上昇が見込まれるが、不透明であるが、内示通りであればまずまずの見込み、新規の引き合いもそれなりにある
建設業	原材料費の上昇に応じた売上単価アップが出来ていない	新規契約の進捗が遅い
卸・小売業	少しづつ、人も物も動きが出てきた印象 規制緩和に伴い、海外のお客様も増えた	GW・お盆に向け、引続き動きがあると予想する ただし、コロナウイルスの再流行を加味して資金繰り等には注視が必要
物流・運輸業	仕入単価がまだまだ上昇中	仕入単価が上昇する分、販売単価を上げていく予定
その他サービス業	コロナ感染対策の緩和後、個人客に増加傾向が見られ、売上が増加した	GWの集客が完全にコロナ前の水準に戻れば、その流れで上期は好調に推移すると判断

	社会経済情勢の変化に関する影響	設備投資の目的
飲食料品製造業	原料は高値で推移している 電気料金の高騰により工場の稼働コスト高となり収益を圧迫	レトルトパウチ商品の需要増加を考慮した工場増設も検討しているが、情勢をふまえて当面は保留
木材・木製品製造業	ウッドショック、円安により高価な在庫が厚くなっている	新たな製品受注増への対応
化学工業	原材料、水道光熱費が上昇、粗利率低下	新規事業にて新工場建設予定
自動車・同部品製造業	塗装用機材（塗料・シンナー他）の高騰	金属部品塗装の拡大を図っていく
建設業	土木の人材が足りない	技術者の高齢化が進んでいる
物流・運輸業	価格交渉が出来る人材がいない（仕入も販売も）	太陽光発電設備投資を経費削減と兼ねて実施予定
卸・小売業	未だ、原材料価格の高騰、電気代の値上がりが続く、先行き不透明	故障や老朽箇所から順次更新していく
医療・福祉	支出は増加するが、収入単価は同じである	補助金を活用して、ICTを導入

## 調査の概要

調査時点：2023年4月5日～4月26日

調査方法：郵送による記名アンケート方式、  
およびWEBによる回答方式

対象企業：清水銀行取引先企業 220社

回答企業：148社

回答率：67.3%

NO.	業種名	先数
11	飲食料品製造業	7
12	木材・木製品製造業	6
13	パルプ・紙・紙加工品製造業	8
14	化学工業	3
15	金属製品製造業	13
16	一般機械器具製造業	12
17	自動車・同部品製造業	13
18	その他製造業	3
21	建設業	17
22	不動産業	6
31	卸・小売業	19
41	物流・運輸業	16
51	医療・福祉	13
52	その他サービス業	12
	計	148

## 株式会社清水地域経済研究センター

発行日 2023年4月28日

〒424-0941

静岡県静岡市清水区富士見町2番1号

Tel.054-355-5510 Fax.054-353-6011

E-mail smz-center@smz-kenkyu.jp

杉山・福井